

誰かの靴をはいてみる

2020年6月15日(月)

校長 田沢 幸夫

新年度になっても新型コロナウイルスのために、約二か月間、休校が続いていましたが、今日から通常授業を再開することになりました。

休校中は、学校で友達と共に過ごすということができなくて、少し寂しい思いをした人が多いかもしれません。また、中学一年生は、まだ友達ができているかもしれません。

今日から学校生活を再会するにあたり、皆さんにお願いしたいことは、生徒同士、お互いの関わりを大切にすることです。学校で共に過ごす時間が長くなるので、人間関係を大切にしてください。

最近私は、ブレイディみかこの『僕はイエローでホワイトで、ちょっとブルー』という本を読みました。その本には、イギリスの中学校で生活する男の子のことが書かれています。彼が「自分で誰かの靴をはいてみる」という言葉を使っています。他人の立場に立ってみるという意味です。「世界中で起きているいろんな混乱を僕らが乗り越えていくには、自分とは違う立場の人々や、自分と違う意見を持つ人々の気持ちを想像してやるのが大事なんだ」とその中学生が説明しています。

私たちは、文字通りに他の人の靴をはくことはできませんが、その人の靴をはいたつもりで、相手の状況や気持ちに対して、イメージーションを働かすことはできるのではないのでしょうか。

私たちは一人ひとり違った人間です。想像力を働かして、自分と違う相手を理解するように努めましょう。そして、相手の良いところを探すようにしましょう。また、相手が何に困っているのか、何を必要としているのかに気づくようにしましょう。

新約聖書のイエスの言葉で「人からしてほしいと思うことを人にしなさい」という教えがあります。これは「黄金律」と呼ばれる大切な教えで、相手のことを思いやって行動しなさいということです。これは、わかりやすい教えですが、実行するのは意外と難しいかもしれません。とくに言葉には注意してほしいと思います。人から言われたくない言葉は、人に言わない。人を傷つけることばではなく、相手を認め、はげます言葉を使っていきたいものです。

新しく学校生活を始めるにあたって、お互いのコミュニケーションを大切にし、協力しながら有意義な毎日を過ごすことができるよう、神の助けを祈ります。